

あいさい通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山

愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内

電話：0567-55-9993

尾州不二見原



今年、江戸時代の天才絵師である葛飾北斎が注目されているようで、名古屋市博物館でも企画展を開催しています。北斎といえば、1823（文政6）年頃に『神奈川沖裏浪』など富士山を題材にして描いた浮世絵集『富嶽三十六景』が特に有名ですが、この中の一枚に『尾州不二見原』という作品があります。この作品は、現在の愛知県名古屋市中区富士見町付近で描かれたとされ、職人が大きな桶を製作している風景の中に小さく富士山が描かれている構図的に見事な傑作（図：通称は桶屋の富士）です。



当時は、名古屋市など濃尾平野の全域から富士山が見られると信じられていました。このため、現在も稲沢市などにも「富士見」という地名が残っています。もちろん、愛西市の全域からも葛飾北斎が描いた“山”を見ることができます。

しかしながら、現代測量技術、また、コンピュータシミュレーション技術の進展により、濃尾平野

のほとんどの場所から富士山（3776m）は見えないことが証明され、当時の人々が富士山と思って見ていた山は、実は南アルプスにある聖岳（3013m）を見間違えていたことがわかってきました。とはいえ、濃尾平野から望む冬季の聖岳は、奥三河地方の山並みの上に綺麗な白い三角錐の山頂部だけを出しているため、北斎の『尾州不二見原』に描かれた富士山のような山となって見えます（写真提供：林誠三郎氏、津島市内のマンションから早朝の薄明時に撮影）。

世界の経済発展に伴い大気汚染が進んで、遠方の山をくっきりと見える機会も少なくなっていました。しかし、冬季は比較的空気が澄んでいるため、愛西市域からでも、アレッと思うような遠方の山々が見える時があり、一年に数回、南アルプスの聖岳を見ることができます。特に晩秋から初冬のこの時期、早朝や日暮の時間帯が最も機会が多いです。

稲葉真弓 常設展示 除幕式



10月29日(日)愛西市中央図書館で、愛西市教育委員会が主催した「愛西市中央図書館 稲葉真弓 常設展示コーナー」の除幕式がありました。小説家・詩人の稲葉真弓(1950～2014年)氏は海部郡佐屋町(現愛西市)生まれ、津島高校卒業後、仕事をしながら文筆活動に入り、23歳の時、小説『蒼い影の痛みを』で文壇デビュー、女流新人賞を受賞。1992年小説『エンドレス・ワルツ』で女流文学賞、2008年『海松(みる)』で川端康成文学賞、2011年に『半島へ』で谷崎潤一郎賞・中日文化賞を受賞されました。2004年に中日新聞に連載された『環流』は、当地を舞台とした作品です。2014年に亡くなられ、内佐屋霊園に、晩年に出版された詩集の題名である『ひかりへの旅』と彫られた墓石が立てられています。

遺品が津島高校へ寄贈されていましたが、遺族や山稜会(津島高校同窓会)他みなさまのご厚意で、その一部を愛西市中央図書館にて常設展示することになり、当日は、関係者のみなさんがテープカットして展示の公開を祝いました。図書館の開館時にはいつでも見学できます。

木曾三川下流地区広域観光連携協議会



11月7日(火)、今年で3回目となる国土交通省の木曾川下流河川事務所が主催する木曾三川下流地区広域観光連携協議会が、小春日和の天気にも恵まれて愛西市内を会場にして開催されました。今年は、木曾三川分流工事着工(1887(明治20)年)から130年の節目の年でもあるため、現在の木曾・長良・揖斐川の流れだけではなく、工事で廃川となった佐屋川についても紹介しました。愛西市の農村環境改善センターで、日永愛西市長はじめ来賓の方々も同席され出発式を開催した後、立田町にある船頭平閘門を観光船などで通過体験、佐屋町にある佐屋宿場町跡などを歴史散策して、あいさいボランティアガイドの会メンバー21人が、桑名市・弥富市・海津市・木曾岬町の各ボランティアガイド・各市職員関係者・下流河川事務所関係者のみなさん31人を案内してお互いの交流を深めました。

半田市観光協会 との 交流会

11月9日(木)、半田市は亀崎潮干祭など山車祭でも知られています。愛西市観光協会は、半田



市の新見南吉記念館、クラシティ(駅前の商業施設)、ミツカンミュージアム、半六庭園、半田赤レンガ建物などの観光施設を視察し、半田市観光協会との交流会を実施しました。視察の結果、市を代表する酢やビールなど伝統的食品産業を中心とした官民一体の観光施策が盛り上がっている状況を実感しました。

写真コンテスト 入賞作品 巡回展示



愛西市観光協会が主催した“第1回 出逢い・ふれ逢い・あいさい写真コンテスト”は、9月30日（土）に募集が締め切られ、228枚の応募作品がありました。そして、10月13日（金）には審査会が開催され、優秀作品が多く入選を選ぶことが大変だったようです。10月28日（土）に愛西市観光協会（愛西市商工会南支所内）で表彰式が開催され10点の入賞作品が発表されました。

入賞作品は、「御武者（オビシヤ）祭＝新成人を祝う祭」「鉾持ち衆の雄姿＝尾張津島天王祭の市江車」「この町に嫁いで＝花蓮の収穫風景（上写真）」など、事業名にある「出逢い・ふれ逢い・あいさい」が写真として表現された傑作揃いでした。コンテストとして、市民のカメラ目線を通して愛西市の魅力を再発見できたと思います。

これらの作品は、愛西市内の観光資源を紹介するため、下記日程により各施設で巡回展示されています。これを機会に愛西市の魅力ある観光資源を再発見して下さい。

<巡回展示①> 展示日時：12月 1日（金） ～ 12月20日（水）
展示会場：愛西市佐織公民館（9:00～17:00 月曜休館）
問合先：愛西市観光協会（0567-55-9993）、佐織公民館（0567-26-1123）

<巡回展示②> 展示日時：1月 5日（金） ～ 1月19日（金）
展示会場：道の駅・立田ふれあいの里（9:00～17:00 木曜定休）
問合先：愛西市観光協会（0567-55-9993）

1月31日はゴロ合わせで1・31（あいさい）の日です。来年も1月第4日曜日（28日）は、愛西市観光協会が主催する「あいさいフェスティバル」が開催される予定です。詳細は12月下旬に配布されるチラシをご覧ください。写真コンテスト作品はフェスティバルでも展示されます。

～ 愛西市周辺の観光 今後の予定 ～

- 11月23日(木・祝) 津島法人会 ねんぐ村(於: 甚目寺総合体育館)
26日(日) レンコン掘り体験(観光協会主催、於: 森川花はす田)
12月 2日(土) 愛知駅伝「愛知ふるさと市」(於: 愛・地球博記念公園)

＜西尾張CATVが放映している番組『水谷ミミの講談あれこれ』の12月放映テーマは、木曾三川分流工事を指揮したオランダ人技師のデ・レーケが予定されています。番組の対談者としてあいさいボランティアガイドの会メンバーが案内します。乞う、ご期待!!!＞

V G 12月定例会の予定

集合時間: 12月17日(日) 9時～ 集合場所: 愛西市文化会館
内 容: 2017年度の事業について

◇11月定例会(11月19日(日) 9時～11時、於: 佐織公民館、22人出席) 議事録

1) 今後の催事について

- 「第4回あいさいフェスティバル」の日程と開催内容を説明しました。
- 木曾川下流事務所主催「自転車走行社会実験」の実施予定を説明しました。
- 勝幡地区個別案内依頼、「あいさい観光おもてなし講座」などについて話し合いました。
- 研修旅行の行先・日程について話し合いました。

2) 10・11月の催事報告

第2回ミズベリング協議会、木曾三川下流地区広域観光連携協議会交流会、愛西市商工まつり、レンコン掘り体験、木曾川下流域合同観光物産展などの協力内容を報告しました。

3) その他

- 午後の歴史散策事前打ち合わせをしました。



あいさいさん

◇秋の歴史・文化講座 歴史散策(11月19日(日) 13時～15時半、97人参加)

愛西市中央図書館主催の歴史散策として、ボランティアガイドの会員・図書館スタッフ15人を含め97人が参加して、佐織公民館を起終点として、愛西市の根高町～勝幡町に続く高須街道(津島上街道)を歩きました。途中、津田正生宅跡、釜地藏寺、勝幡城跡、名鉄勝幡駅前広場、梶浦正之出生地、山田長政出生伝承地など街道沿いの名所旧跡を巡り郷土史を学びました。今年は冬将軍の到来が少し早いようで、当日は、11月というのに、伊吹おろしが吹き、時雨も降る、あいにくの天候となりましたが、防寒対応されて参加されたみなさんの熱気に包まれ、釜地藏寺の特別開帳もあり、文化の香りで充実した楽しい一日となりました。

